平成26年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月５日

上場会社名　　あすか製薬株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　4514　　ＵＲＬ　http://www.aska-pharma.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）山口　隆
問合せ先責任者　（役職名）経営企画部長　　（氏名）熊野　郁雄　　ＴＥＬ　03-5484-8366

四半期報告書提出予定日　　平成25年11月８日　　配当支払開始予定日　平成25年11月29日
四半期決算補足説明資料作成の有無：　有
四半期決算説明会開催の有無　　：　有　　（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．平成26年３月期第２四半期の連結業績（平成25年４月１日～平成25年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年３月期第２四半期	20,026	△0.6	710	11.4	841	8.9	522	△29.5
25年３月期第２四半期	20,138	0.7	637	48.1	772	39.1	740	780.1

（注）包括利益　26年３月期第２四半期　1,259百万円（99.1%）　25年３月期第２四半期　632百万円（537.7%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年３月期第２四半期	18.83	―
25年３月期第２四半期	26.81	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年３月期第２四半期	52,525	34,436	65.5
25年３月期	51,770	33,350	64.4

（参考）自己資本　26年３月期第２四半期　34,414百万円　25年３月期　33,344百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年３月期	―	7.00	―	7.00	14.00
26年３月期	―	7.00			
26年３月期（予想）			―	7.00	14.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成26年３月期の連結業績予想（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,900	2.3	700	△34.1	1,050	△21.5	600	△46.1	21.64

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　無
新規　－社　（社名）　　、除外　－社　（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：	無
②　①以外の会計方針の変更	：	無
③　会計上の見積りの変更	：	無
④　修正再表示	：	無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年３月期２Ｑ	30,563,199株	25年３月期	30,563,199株
②　期末自己株式数	26年３月期２Ｑ	2,791,761株	25年３月期	2,835,646株
③　期中平均株式数（四半期累計）	26年３月期２Ｑ	27,750,159株	25年３月期２Ｑ	27,626,561株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、かつ様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 5
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 6
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8
４．補足情報 …… 9
（１）主力品の売上高 …… 9
（２）臨床開発状況 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府のデフレ脱却に向けた経済政策に伴う消費者マインドの改善等から個人消費が底固さを増しているほか、設備投資も増加基調にあり、景気回復への期待が高まっております。

医薬品業界におきましては、大型製品の相次ぐ特許切れによる収益低下と、財政再建を背景とした後発医薬品の使用促進等医療費抑制の動きが進んでいることなどから、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと当社グループでは、本年４月よりスタートした新中期経営計画「ASKA PLAN 2015」の方針に基づき、経営と執行の分担をより明確にすることでスピーディーな経営を目指しております。また、ジェネリック事業の拡充を目的に10月より「あすかジェネリック事業本部」を新設いたしました。販売面では医薬品事業を中心に適正な医薬情報活動に努めましたが、市場における競争激化の影響を受け、売上高は200億２千６百万円（前年同期比0.6%減）となりました。

医療用医薬品分野では、高脂血症治療剤「リピディル」をはじめ、後発医薬品の前立腺癌治療剤「ビカルタミド」、高血圧症治療剤「アムロジピン」等が伸長し、緊急避妊剤「ノルレボ」も適正使用の推進により引き続き増加しましたが、長期収載品である「アルタット」、「プロスタール」等が伸び悩んだこともあり、売上高は181億３千８百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

動物用医薬品分野では、繁殖用薬とアミノ酸等機能性飼料の組み合わせによる相乗効果の発揮に努めましたが、売上高は17億７千４百万円（前年同期比2.7%減）となりました。

そのほか、検査、医療機器、食品等の売上高は１億１千２百万円（前年同期比11.1%減）となりました。

利益面では、販売費及び一般管理費の削減および下期へのずれ込み等により、営業利益７億１千万円（前年同期比11.4%増）、経常利益８億４千１百万円（前年同期比8.9%増）とそれぞれ増益となりました。一方、四半期純利益につきましては、前年同期に震災関連の復旧整備補助金を特別利益に計上したことの反動等もあり、５億２千２百万円（前年同期比29.5%減）と減益となりました。

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第２四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ７億５千４百万円増加し、525億２千５百万円となりました。これは受取手形及び売掛金は減少しましたが投資有価証券およびたな卸資産等が増加したためであります。

負債につきましては、３億３千２百万円減少し、180億８千８百万円となりました。これは支払手形及び買掛金等は増加しましたが未払法人税等が減少したためであります。

純資産につきましては、10億８千６百万円増加し、344億３千６百万円となりました。これは株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加および四半期純利益の計上による利益剰余金の増加によるものであります。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末から1.1ポイント上昇し65.5%となっております。

②キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ１億５千７百万円減少し、64億２千万円となりました。

当第２四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動におけるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、11億７千７百万円（前年同期は28億７千８百万円の増加）となりました。これは法人税等の支払額は増加しましたが、売上債権の減少および減価償却費等の非資金項目を計上したためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、９億６千６百万円（前年同期は７億９千万円の減少）となりました。これは有形固定資産および有価証券の取得資金として使用したためであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、３億６千９百万円（前年同期は１億８千４百万円の減少）となりました。これは配当金の支払いおよび短期借入金の返済によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年３月期の通期の業績予想につきましては、平成25年５月14日の決算発表時の予想数値から変更はありません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,983	4,170
受取手形及び売掛金	9,278	8,057
有価証券	2,694	2,852
商品及び製品	7,064	7,505
仕掛品	990	926
原材料及び貯蔵品	1,515	1,932
その他	1,707	1,827
貸倒引当金	△1	－
流動資産合計	27,233	27,273
固定資産		
有形固定資産	11,889	12,562
無形固定資産	1,373	954
投資その他の資産		
投資有価証券	6,130	7,237
その他	5,224	4,586
貸倒引当金	△113	△113
投資その他の資産合計	11,241	11,710
固定資産合計	24,504	25,227
繰延資産	32	24
資産合計	51,770	52,525
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,313	5,040
短期借入金	608	1,441
賞与引当金	1,064	1,034
その他の引当金	245	204
その他	3,677	2,901
流動負債合計	9,908	10,621
固定負債		
退職給付引当金	6,636	6,847
その他の引当金	351	277
その他	1,523	342
固定負債合計	8,512	7,466
負債合計	18,420	18,088
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	845	845
利益剰余金	33,000	33,328
自己株式	△2,525	△2,504
株主資本合計	32,517	32,867
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	827	1,547
その他の包括利益累計額合計	827	1,547
少数株主持分	5	22
純資産合計	33,350	34,436
負債純資産合計	51,770	52,525

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
売上高	20,138	20,026
売上原価	11,326	11,265
売上総利益	8,811	8,760
返品調整引当金繰入額	2	1
差引売上総利益	8,809	8,759
販売費及び一般管理費	8,171	8,048
営業利益	637	710
営業外収益		
受取利息	0	3
受取配当金	62	79
不動産賃貸料	103	108
その他	16	9
営業外収益合計	182	200
営業外費用		
支払利息	3	5
固定資産処分損	14	26
不動産賃貸費用	16	15
その他	12	21
営業外費用合計	47	69
経常利益	772	841
特別利益		
補助金収入	359	－
特別利益合計	359	－
税金等調整前四半期純利益	1,132	841
法人税、住民税及び事業税	792	158
法人税等調整額	△403	143
法人税等合計	389	302
少数株主損益調整前四半期純利益	742	539
少数株主利益	2	17
四半期純利益	740	522

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	742	539
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△110	719
その他の包括利益合計	△110	719
四半期包括利益	632	1,259
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	630	1,242
少数株主に係る四半期包括利益	2	17

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,132	841
減価償却費	1,153	1,118
退職給付引当金の増減額（△は減少）	175	210
賞与引当金の増減額（△は減少）	19	△29
受取利息及び受取配当金	△63	△82
支払利息	3	5
補助金収入	△359	－
売上債権の増減額（△は増加）	454	1,220
たな卸資産の増減額（△は増加）	29	△794
仕入債務の増減額（△は減少）	△410	720
未払消費税等の増減額（△は減少）	173	△383
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額（△は減少）	△163	△162
その他の負債の増減額（△は減少）	146	△448
その他	195	△294
小計	2,488	1,922
利息及び配当金の受取額	63	84
利息の支払額	△4	△6
補助金の受取額	359	－
災害損失の支払額	△1	－
法人税等の支払額	△26	△822
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,878	1,177
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	－	300
有価証券の取得による支出	－	△500
有形固定資産の取得による支出	△647	△579
無形固定資産の取得による支出	△55	△50
その他	△87	△136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△790	△966
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	－	△167
長期借入金の返済による支出	△29	△29
自己株式の純増減額（△は増加）	37	21
配当金の支払額	△192	△194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△184	△369
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,904	△157
現金及び現金同等物の期首残高	4,068	6,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,973	6,420

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

（セグメント情報）

前第２四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日）及び当第２四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年９月30日）

当社グループの報告セグメントは「医薬品事業」のみであるため、記載を省略しております。

4. 補足情報

(1)主力品の売上高

主　力　品　の　売　上　高
（平成26年3月期　第２四半期実績）

（単位:億円）

品目名		前期 平成25年3月期		当期 平成26年3月期		対前年同四半期増減率（%）
		第2四半期実績	年間実績	第2四半期実績	年間見込	
経皮吸収型鎮痛消炎剤	セルタッチ	28.9	48.6	25.8	42.6	△ 10.7
甲状腺ホルモン剤	チラーヂン	24.0	45.9	23.4	49.7	△ 2.3
高脂血症治療剤	リピディル	18.6	41.2	21.2	45.1	14.2
前立腺癌治療剤	ビカルタミド	9.4	20.8	10.6	21.9	12.7
高血圧治療剤	アムロジピン	8.8	18.4	9.4	19.1	6.2
前立腺肥大症・癌治療剤	プロスタール	10.3	19.9	8.4	17.6	△ 19.0
消化性潰瘍・胃炎治療剤	アルタット	8.5	16.3	6.4	12.9	△ 24.4
経口避妊剤	アンジュ	6.0	12.4	5.5	11.1	△ 8.3
緊急避妊剤	ノルレボ	2.3	5.4	3.2	6.7	36.5

（2）臨床開発状況

臨　床　開　発　状　況

（平成25年11月現在）

平成25年11月5日
あすか製薬株式会社
東証市場第一部
コード番号　4514

区　分	品　名 （開発番号）	物　質　名 （一 般 名）	領 域・効 能	備　　考
PhaseⅡ/Ⅲ	（L-105）	リファマイシン系の難吸収性抗菌薬	肝性脳症 過敏性腸症候群（IBS） クローン病（CD）	Alfa Wassermann S.p.A.（イタリア）より導入
PhaseⅢ	（AKP-008）	黄体ホルモン（プロゲステロン）剤	IVF-ETにおける黄体補充 （膣坐剤）	自社開発
PhaseⅡ	（CDB-2914）	選択的プロゲステロン受容体調節剤	子宮筋腫 緊急避妊	Laboratoire HRA Pharma,SA（フランス）より導入
PhaseⅡ	（AKP-002）	PDE9阻害剤	前立腺肥大症に伴う排尿障害等	自社開発 （アステラス製薬㈱へ導出）
Phase Ⅰ	（AKP-001）	p38MAPK阻害剤	炎症性腸疾患	自社開発
Phase Ⅰ	（AKP-501）	遺伝子組換え卵胞刺激ホルモン （rFSH）	不妊症	日本ケミカルリサーチ㈱からの導入及び共同開発